

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム滝原
(ユニット名)	西ユニット
所在地 (県・市町村名)	三重県度会郡大紀町滝原830-1
記入者名 (管理者)	管理者 岩本健作
記入日	平成 20 年 2 月 11 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	やっと理念を掲げた所	○	やっと理念をか掲げた所で地域密着型として成果が何も出ていない
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有が未だなされていない	○	理念をホールの壁に掲げた所で全職員にコピーを渡し、その同意実践に更につとめたい (胸に垂らす名札の裏にも理念を書いた)
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会、老人会との交流に取り組んでいる	○	先ず運営推進協議会も立ち上げた所で2ヶ月に1回の開催実現に努めたい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に人が殆どいないので日常的な付き合いがない	○	自治会、老人会への挨拶廻りがやっと済んだ所で今後は会報を出したりして交わって行きたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事、地域活動にはまだ参加交流していない	○	今後は更に孤立することなく積極的に各種地域事業にも関わって行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センターなどに、認知症相談のサテライトとして活用し、相談内容を包括支援センターが統括し、専門医や居宅との架け橋になるような働きが出来ないか等提案はしている	○	地域の事業所などとの連携の強化を図っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	何も行っていない	○	運営推進会議も立ち上げた許りで具体的な改善は何も見られていない。適正な自己評価をしてレベルアップをはかりたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議を2月6日に開催したばかりでその具体的な取り組みは何もしていない	○	第2回会議を4月開催と定め具体的な提言を持ち寄る事としている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場やケアプランセンター、地域包括支援センターなどを訪問し地域の状況の把握するようにはしている	○	管理者は努力している様であるが、その事が運営者に伝わっていないので、管理者と運営者との連携を深めたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースを経験したことがないため分からない	○	その様な機会を有しないので、何とも言えないが今後その様な機会があれば取り組みたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	その様な事例の報告は受けていない	○	法律を学び虐待についての理解を深めるとともに、チェックリストを作成し職員自身が見直せるようにし虐待防止したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、所々で質問できる時間を取って理解してもらえるように努めている	○ 契約時には十分な時間をかけ、納得、理解した上で契約を交わすようにしたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	充分とは言えない 運営者と管理者以下とのコミュニケーションが上手くいっていない	○ 利用者の意見をアンケートを通し又家族から直接に聞いて取り組んでいきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態の報告は、適宜行っており、面会の時や不在の多いご家族に対してはメールで連絡を入れたりしている	○ 面会があればその都度状態を報告する。面会の少ない家族に対しては3ヶ月に1度程度手紙や電話などで連絡を入れ状態を報告していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	充分とは言えない	○ 今後、運営推進会議に具体的に諮り、善処して行きたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議に諮り、今後更に反映させていきたい	○ 2ヶ月に1回は少なくとも運営推進会議に諮って、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させていきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニットで話し合った結果を管理者、施設長と相談し適切な対応が行えるようにしている	○ 要望についてはユニットで話し合いを行い、可能な限り対応できるよう検討する
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットに職員を固定し、馴染みの関係を築けるようにしている	○ 極力、異動や離職を防止し、利用者さんへのダメージを最小限にする努力をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者講習会に受講出来る人材育成に努めていきたい	○ 介護実践者講習会にも積極的に参加させたい グループホーム協会にも入会し研修参加させたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや各事業所の居宅支援事業所等が来てもらえるよう訪問し働きかけをし、今年度は何度が訪問してもらっている	○ 運営推進会議に各事業所のスタッフも加はっているので、二ヶ月に一回の推進会議が重要だと思います。積極的に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者以下の職員の行動に口を挟むことのない様に、むしろ気を使い充分とは言えない	○ 積極的に耳を傾けたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	NPOはグループホームの内部統制の法人である事を自覚し、更なる交流を深めたい	○ 運営推進会議を開催し運営者と職員との橋渡しをさせたい
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みがあれば担当の介護支援専門員と連絡調整し、面接をしたり申し込みにいたる経緯について確認をしながら利用者から状態を聞くようにしている 訴えの強くなる方についても時間をかけ話を聞くようにしている	○ 申込があった時点でケアマネに連絡し、情報収集や本人や家族と面接し話をよく聞くようにしている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に家族と話をする時間を多く取りながら、不安に感じて老いること等を聞き取り、その経過について連絡を入れながら信頼関係を築くよう努めている	○ 今後も利用者、家族とのコミュニケーションを図りながら信頼関係の構築に努める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は、居宅支援事業所からが多く、直接家族からの相談が殆どないが、あれば居宅支援事業所と協働し対応している	○	相談体制を強化しながら、居宅介護支援事業所との連携を図り、情報を職員で共有し、検討を行っている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学に来てもらうようにしている	○	時間の余裕があれば、体験利用を勧めたり、日中だけでも共同生活をして見るなどの試みを行って行きたい
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	協働作業を心がけ、共に生活する事を意識して介護に取り組んでいる	○	利用者の状態に応じ生活歴の把握をし、昔の頃を聞きながらお互い支えあう関係を築いていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時も一緒に過ごすようにしたり、状態を伝えることにより協力関係を築いていくように心がけている	○	面会時にも家族とともに過ごし日々の生活が分かるようなコミュニケーションを保っていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出を進めたり、外泊を進め必要であれば関係機関との連絡を取りながら本人と家族の関係が継続できるよう支援している	○	希望を勘案し、家族とも相談しながら関係が継続できるよう支援する
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院への見舞いに行ったり、家族には手紙を出したりする支援をしている	○	これまで行ってきたこと(お中元、お歳暮、年賀状など)も出来る限り継続できるよう支援し、希望があれば外出し関係を維持して行く
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室に個別に訪問し話を聞いたり、相談に乗ったりするようにしており、利用者同士が話し合っ決めてられるように支援している	○	独立してきた利用者には居室を訪問し相談にのるなどし、孤独にならないようにしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所しても、自宅に訪問したり入院先を訪問したりして、その後の対応や相談を受け、円滑に進むように対応している	○	退所後も家族の相談を受け入れるように伝えたり、入院中であれば見舞いに行ったり関係を継続できるようにしている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの段階で本人思いを確認しながらアセスメントを行い、本人の意向にそう得よう努めている	○	本人・家族とのコミュニケーションとアセスメントを活かし思いや意向を把握して行く
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症発症をした経緯などを専門医や地域包括支援センター、連携・支援施設の職員と検討し作成し、面接などの段階で聞き取りを行うようにしている	○	入所前の調査や家族からの聞き取りをし生活歴を把握して行きたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	項目を小さく分けてアセスメントし、本人の意向や判断ができない方については行動や言動から望んでいると思われることを考えながら残存能力を活用できるような支援を行っている	○	アセスメントをしっかりと行い、客観的、総合的に把握できるようにして行く
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成し、原案についてカンファレンスを行い家族に相談している	○	アセスメント段階においても介護職員と協働し、更に利用者視点からも介護計画が作成できるようにしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じて介護内容は変更してきているが、プラン反映まで全てが行えているわけではない	○	状態の変化に応じモニタリングを行い、プランに反映できるようにする

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にはキーワードと思われることを題にしてから、記録を記入するなどの工夫をし状況共有がしやすい記録用紙にしている	○	今後もキーワードを活かし記録を工夫しながら情報共有が更にはかれるよう努めたい
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて対応は可能な限り行っている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町民生委員の訪問の受入を行ったり、夏休み中の小学生が訪問してもらえるようにし、ボランティアも依頼し訪問してもらえるようにしている	○	積極的に働きかけを行い、地域資源との協働を図っていく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	状態に応じ、病院の相談員や看護師、施設のケアマネジャーと随時連携を取りながら他のサービスを利用できるようにしている	○	今後も他事業所との連携を図っていく
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今までこのようなケースはないが、あれば対応していきたい	○	必要に応じて包括支援センターと共に協働できるよう関係を強化していく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、主治医を決定していただいており、入所後も入所前からのかかりつけ医を受診できるよう適切に支援している。家族の同行受診が原則であるが、不可能な場合には職員が代行するようにし、入所契約時に説明を行い同意を得ている	○	家族と相談しながらかかりつけ医への受診が出来るよう支援して行く 入所の時点で主治医に依頼に行くように



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も関係機関との連携を図りながら、早期対応が出来る様、更なる体制を維持したい</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>かかりつけ医の看護師との関係を構築し、気軽に相談できる体制を作りたい</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院先を訪問したり、家族と連絡を取りながら情報交換や相談をしながら早期の対応が出来るようにしているが、更に努力したい</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>主治医からの意見などを一緒に聞いたり、報告しながらじっくり時間をかけ話し合い方針を共有して行く</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>事業所での対応可能な事と不可能な事を十分説明をし、将来的なことも踏まえて上で考え早い段階で検討を行っている</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>転所する際においても、情報提供書や介護計画書を家族に同意を得て提供し、継続したケアを行われるよう努めている</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いについては、自尊心を傷つけないように対応している 人前では本人を傷つけないように目立たないように声かけするよう配慮している	○ 職員間でも情報伝達時には周囲の利用者に注意しながら行っていく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思決定できない利用者さんに関しては、表情や行動から読み取るようにしている	○ 各利用者に合わせた対応を心がけ、利用者が喜んで出来るような方法を取っていく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、その人の生活パターンに配慮しながら、個別性ももてるよう支援している	○ 生活歴を把握し、各人がその人らしく生活できるよう支援して行きたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は出来る限り本人の望む所へ行けるようにしているが、少し遠い場合は、家族に依頼するか近隣へいってもらうようお願いしている	○ 家族や本人と相談・協力を得ながら、可能な限り本人の望む所へいけるよう努める
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話しながら食事を取り、後片付けも一緒に行いながら楽しい時間を過ごせるように援助している	○ 各利用者の能力の応じて協力できる事は協力してもらえようにする
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒、たばこ等の希望は特にないが、あれば対応していきたい	○ 利用者に希望を聞きながら楽しめるように支援する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	大まかな排泄時間を把握し、尿意の訴えない方でも促しトイレで出来る限り排泄が出来るように援助している	○	排泄パターンを把握しながら、尿意の訴えの少ない方でも能力に応じ対応をしていく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を確認しながら、入浴を提供している	○	本人の状態や希望を確認しながら入浴を提供して行く
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるよう冷暖房の調整や湯たんぽ、加湿器などにより安心して気持ちよく休めるように支援している	○	毛布なども自宅で使用していた使い慣れた物を使用できるよう家族に協力してもらっているが、更なる巡回を続けたい
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けやテーブル拭き、リビングや廊下の掃除機かけやモップ掛けなどお願いできそうな仕事を頼んでいる 畑の事に関しても教えてもらうよう接し、本人自ら手本を見せてくれるような支援の方法を心がけている	○	各利用者さんの状態に応じできる事については残存能力を活用する上でも積極的に働きかけていく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状況によっては、小額の金銭管理を自分でしてもらい、病院や買い物の際には自分で支払いを行ってもらうようにしている	○	買い物時については、本人に支払いをしてもらえるよう見守りながら援助する様にしたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて買い物に行ってもらったり、家族が入院している先の病院への訪問や入居者が入院している病院への訪問も利用者さんと一緒に行ったりとその人の希望の応じて外出援助している	○	今後も希望を確認しながら外出が出来るよう支援する
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近隣であればドライブをかねて外出支援を行っている	○	家族と相談し協力を得ながら今後は行って行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、利用者さんが手紙を書くために介助したりできるように援助している	○	今後も手紙などのやり取りができるよう支援する
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族にも訪問しやすいような雰囲気作りを心がけており、笑顔で迎えるようにしている。	○	訪問者には挨拶と笑顔で迎える事を行い、訪問しやすい雰囲気を作って行きたい
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の具体的な行為については理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束についての理解をより深め、身体拘束が引き起こす阻害要因などについても学び、身体拘束をしないケアを目指していく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や部屋には鍵をかけず好きな時に外に出られるようにしている。利用者さんが外出時等は希望に応じて部屋を施錠をしている	○	今後も鍵をかけず、開放的なホームを維持する職員間でもミーティングなどを通じ工夫を行っていく
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者さんと同じところで記録を記入しながら、状況を把握するよう努めている。夜間は定期的に巡回している	○	昼夜巡回を行い、利用者の安全と安心を確保しながらプライバシーの確保にも配慮して行きたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要に応じて危険なものは利用者さんから手の届かないように又は眼に入らないように危険を防ぐようにしている	○	危険なものは高い所にあげたり、眼に入らないようにしながら殺風景にならないよう生活観にも配慮しながら行っていく
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	アセスメントの時点で転倒のリスクを検討している	○	KYTにより、危機意識の向上を図りながら、危険に対して気付き、目配りを行えるようにしていきたい 各マニュアルを作成し訓練も実施して行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜勤者は一応、その初期対応について指導を受けている	○	消防署などの協力を得ながら、救急手当や蘇生術の研修を実施し、全職員が対応できるようにする AEDの導入をも期待したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は消防の方から受けている	○	年2回の避難訓練の実施に加え、消火器の使用方法の確認と関係機関への協力体制を構築していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	安全を最優先し、歩行される方でも行動を抑制するのではなく一緒について歩行したり、心配り、目配りを心がけている	○	家族と良く話し合いを行い、見守りを重視したケアでを行って行きたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態の変化については、すぐに報告があり状態を確認しながら必要に応じて主治医に連絡を入れたり、受診をし対応するようにしている	○	体調の変化があればすぐに報告し、必要に応じて主治医に連絡し対応について指示を仰いで早期に対応する
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院でもらった内服薬は薬情をコピーし個人のケースにファイルし、職員は利用者がどのような内服薬を服用しているのかが分かるようにしている	○	今後も、内服薬について把握する事に努め、医師からの注意事項なども伝達し症状の変化に対応して行く
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使うようにしており、水分量や運動を働きかけ自然排便が出来るようにしている。	○	それでも排便のみられない入居者には適宜緩下剤を処方してもらっているが、少なくとも3日に一度は排便を促したい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては、行ってもらうよう促し、自分で出来ない利用者については、介助し行っている	○	夕食後には入歯を外し洗浄するように努める

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表と一覧表に食事摂取量が分かるようにしており、一目で情報が見れるようにしている	○	日に2回といわず必要に応じ利用者情報が判るようにしたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	県の感染情報センターに登録し、情報収集を行い早期の対応が行えるようにしている。感染症に関してはマニュアルを配布している インフルエンザに関しては利用者、家族に同意を得て職員共に予防接種を受けている	○	マニュアルについては、もう一度確認し発生多発時期においては全員で読み返し対応が出来るようにする
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の中の食材を確認し、冷凍保存や賞味期限を確認しながら献立を作成している。台所周りは清潔・衛生を保つようにしており、タオルなども定期的に漂白剤につけて消毒している	○	夕食後には台所を洗い清潔を保つようにし、タオルなどはハイターにつけ消毒している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターなどを置き、花壇もあり明るい雰囲気のあるようにしている	○	玄関先には訪問しやすいよう、更に工夫を行って行きたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた旬の食材を使用したり、リビングには季節感を感じられるような飾り付けを行っている	○	今後も季節に応じた飾り付けを行っていく
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	渡り廊下に椅子を置き、天気の良い日は外を眺めながら会話が楽しめるような配慮はしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使いたければ日用品も居室においていただけるようにしており、なるべく利用者さんが心地よく生活できるようにしている	○	入所者に馴染みの品、使い慣れた物、昔懐かしい物などを空間の許す限り、持ち込ませてあげたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中部屋にいない時は換気扇や窓を開け換気し空気の入れ替えを行っている。室温も状況を見ながら調整している	○	換気や掃除などにより居室内の臭いや温度調整を行い各利用者に応じて対応を行っていく
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置しておける。リビングもテーブルとテーブルの間を工夫する事により、歩行される方が支えに使用出来るように配慮している	○	残存機能を失うわぬ様、出来る限り歩いてもらっているが、ワーカーの同行見守りを励行させたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室入口には分かりやすいように、入ロドアに大きな字で表示している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に花壇があり、散歩の時などにいつでも水遣りや世話が出来るようにしている。庭には畑があり、収穫などを行っている	○	畑作業に入居者が参加できる様、更に促したい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「地域との共生そして自立」の理念を実行に移し、地域との共生を図り、一步一步自立の歩みを早めたい